

平成21年度第6回 芦屋市立美術博物館協議会 議事録

日時	平成22年2月12日(金) 15:30~17:00
場所	北館4階 教育委員会室
出席者	<p>会長 神木哲男</p> <p>副会長 西山 厚</p> <p>委員 秋山道廣</p> <p>委員 林 哲也</p> <p>欠席委員 川口研司</p> <p>欠席委員 中田伊都子</p> <p>委員 成田直美</p> <p>委員 山内修身</p> <p>欠席委員 戸田清子</p> <p>欠席委員 大江紀子</p> <p>事務局 藤原教育長 (美術博物館館長)</p> <p>橋本社会教育部長(美術博物館副館長)</p> <p>川崎美術博物館主査</p> <p>芦屋ミュージアム・マネジメント職員 6人</p>
会議の公開	公開 一部公開

1 議題

平成22年度事業計画について

2 審議内容

上記の議題について、事務局と芦屋ミュージアム・マネジメント職員(以下、AMM職員という。)より説明、各委員より意見があった。

〔主な質疑内容〕

(会長) それでは、ただ今から議事に入ります。  
 今回は、『平成22年度事業計画について』を議題とします。  
 資料の説明をしてください。

(AMM理事長)

ただ今から、学芸課長より説明させていただきますが、来年度の計画の基本的な考え方を申し上げたい。  
 この協議会のご指導・ご意見をふまえ、大きく3点、基本的な方向を設定した。

芦屋市民・芦屋市にかかわる諸団体との連携を今まで以上に緊密にはかる。教育普及活動・講演会等・勉強会等を通年で、できる限り連続して行う。来年度は、芦屋市にとって周年企画が沢山あるので、タイムリーな企画をふまえていく。

以上の3点で、年間の企画を構成した。ご検討の程宜しく申し上げます。

(AMM職員)(資料1-1・資料1-2を使い、AMM職員が平成22年度事業計画を説明。)

(事務局) 資料2を使って説明。

(会長) ありがとうございます。ご意見・ご質問をどうぞ。  
入館者数については後にしたい。

(林委員) 内容はよくわかりました。ただ、市民としての希望を言えば、周年事業について少し線が細いのではないかと思う。美術博物館としてある程度活力あるものをご用意いただきたい。市民が参加・興味を持てるような企画があれば。

70周年なので、芦屋ゆかりの作家展は計画されているだろうと期待していた。兵庫県立美術館王子分室原田の森ギャラリーでは「ひょうごゆかりの作品展」をやっている。興味の持てる、呼びかけやすいものを展示している。

(AMM職員) ご指摘のとおり。60周年のときは「伊勢物語と芦屋」の展覧会を担当したが、おそらくそのクラスのものになると予算的にむずかしい。  
芦屋ゆかりの作家については、「芦屋モダニズムとライフスタイル」として廣瀬勝代さん・小西絹甫さん・小篠弘子さんなど、ゆかりの作家を交えていきたい。まだ膨らましきれていない。ご指摘を受けて、これから盛り込んでいきたい。

(会長) 第1展示室では、どのくらいの展示の中身を予定しているのか。例えば写真など。

(AMM職員) 80点くらいです。

(会長) 展示期間に来れば2つから3つの企画を見ることができるとは、場合によっては、全館でひとつの展示をできないか。

( A M M職員 ) 中山岩太展は，当館で10年前に全館で展示をした。芦屋カメラクラブ展もほぼ同時期に展示をした。予算的にもできた。  
今回は館蔵品の展示が中心ということで，ひと部屋になった。  
兵庫県立美術館でも同時期に中山岩太展をするので，兵庫県立美術館の学芸員ともタイアップしていきたいという話はしている。

( 秋山委員 ) 教育普及の点からの意見だが，昨年度は生徒を連れて実物を鑑賞させていただいた。やはり実物の作品の説得力はかなりある。子どもの感想からしても良かった。  
鑑賞学習が各校とも広まっている。そう考えると，具体ギャラリーが通年であるのは非常に良い。芦屋市造形教育研究会とも話をして，子ども達を連れて行きたい。  
今，3年生が美術博物館へ行っている。学校にも沢山の古い道具などはあるが，管理が良くないので，なかなかまとまってできない。3年生を受けてもらっているというのはかなり良い。また，よく学校にも古い道具を持って来てもらっている。  
来館者数も大事だが，外へどのくらい普及できたかという数も記録してほしい。人数に入れていくのも大事なのではないか。  
教育普及についても，かなり面白い企画になってきている。  
「芦屋市造形教育展」については，毎年大きなものを行っているのは阪神間では芦屋だけ。是非続けていってほしい。  
「あしやのびじゅつ - MOVING! - 」は子ども達を連れて行っても面白だろう。水墨画なども鑑賞させたいと思っている。来年度に期待している。

( A M M職員 ) 3年生の生活学習についてお話をいただいたが，我々としては歴史学習の始まる6年生にも何とか美術博物館に来てもらえないかと考えている。出前講座としてでもかまわない。早い段階から調整をさせていただきたい。

( 秋山委員 ) 今やらないとまず無理。前年度に計画を立てておかないと。学校現場は忙しく，むずかしい。ただ，企画がスッと入れれば子どもたちは大変喜ぶ。

( A M M職員 ) ご指導いただきたい。

( 林委員 ) 生涯学習の面でも，出前講座的なものは大変参加者が多い。希望があればということではなく打って出てほしい。是非PRを含めてやってほしい。

( 山内委員 ) 今，開催されている「くらしと道具」の展示を見たが，もう一步踏み込んで，その道具がどういう風に使われていたのか，地域での祭りごと，家庭での四季の祭り，くらしの中での移り変わりなどの説明があれば子ども達も楽しく見られるのではないか。

入館者数については後ほどということだったが、今年度1月末までで、どの程度入館者があるのか教えていただきたい。来年度の予算がどのようになりつつあるのかも教えていただきたい。

(西山委員) 年間スケジュールを説明していただいた第1印象としては「大変だな」。良く頑張っている。少ない人数で次から次へと大変だ。70周年事業の予算が43万円でしみじみとする。市民のみなさんにも応援してほしい。力添えをしてほしい。具体の美術を通年でやっていくのは大変良いことだ。奈良国立博物館の館長は、「『具体』の価値をどこまで市民にわかってもらえるかにかかっている。」とっている。「巷のコレクション」は、他ではなかなかできないだけでなく、ずっと芦屋で活動している人だからこそできる企画だ。まさに従来にない企画。神戸新聞の企画について、来年度はもう決まってしまうので、入れるところがあるのか。

(AMM職員) 例えば、資料1-2のP4で説明させていただくと、「芦屋モダニズムとライフスタイル」が43万円で非常に辛いというお話がありましたが、上を見ると225万円ついている。次のページの「小出櫓重を歩く」が222万円に対して「芦屋の鉄道物語」が63万円。スケジュール表をご覧くださいと第1展示室のものが全て予算が膨らんでいる。「天王寺家卓三展」は70日間の人件費を入れている。これで全ての第2期の人件費が出る。印刷製本費も全て第1展示室のところであげている。これらを除いていくとほぼ、他の展覧会と同じ額になる。70周年記念事業なのに、リーズナブルになり過ぎているのではということではない。

(会長) 皆さん努力をしているんな企画を考えている。一方で、期間を集中して全館を使って観覧者が満足できるようなものをして良いのでは。例えば、「芦屋モダニズムとライフスタイル」は一つの展示室で全部まかなえるのか。場合によっては二つの展示室を使っても良いのではという気もする。一つの展示室で行うために若干展示を割愛していることがあるのであれば、二つの展示室を使っても良いのでは。これは展覧会の規模などによって違ってはくるのだが。この辺についてはどうですか。

(AMM職員) 声を掛ける先、調査に行った先の作品点数による。全館を使ってというのは是非やりたい。

(秋山委員) 学校で感じたことだが、美術博物館の年間スケジュールを見るとマニアックな専門家のものを感じる。学校ではわかりやすいものが求められている。パッと見て一般の人にわかりやすいか。言葉だけでも何か考えてみてはどうか。

中にいる人が考えると、わかっているものとして考えてしまうが、実際は案外そうでもなく、わかりづらい。

(会長) 確かに。例えば「芦屋カメラクラブ - コレクションを中心に - 」については、全体にタイトルがあってサブタイトルがこれだと、わかりやすい。

(AMM職員) 今一度考えたい。写真も入れて見やすいものにしたい。

(林委員) わかりにくさを補う方法で。もっとできることがあるのではないかと。動員数について、有料の人数が落ちているのが気になる。もう少し入口でお客さんを招く方法があるのではないかと。チラシをもっと配るべき。美術・歴史に興味を持っているグループ・サークルに対しては、「こういうスケジュールで4月は予定しています」と代表者にご案内して、「この展示内容を説明するので、傘下の会員にチラシを配って誘ってこないか」というものがあってしかるべき。

「開いているから来い」というのではなく、「こういうのをやりたいのでチラシを会員に配ってほしい」等、声を掛けてほしい。

(成田委員) 22年度はビッシリあってよい。いち保護者の立場からすると、親子向けの大きなものをしてもらえたら。個人的には、宮崎駿さんの原画・グリグラの原画・藤城氏の影絵のようなものを全館をあげてやっていただけたら。22年度は無理でも23年度は考えてほしい。

(橋本部長) 美術博物館では、観覧料は最高2,000円まで取れる。500万円かけても、観覧料を500円にして1万人来たらペイできる。やなせたかし氏の展示は、不便なところでも1万4,000人来ている。

(藤原教育長) 現在、観覧料は市の収入になる。500万円かけて入館者が増えても、観覧料は市が取ってしまう。AMMの500万円を削れない。指定管理になると、今のようなことが可能となる。

(成田委員) フジテレビの「とくダネ」で、美術博物館の「震災から15年」が取り上げられていたが、これはこちらからPRしたのか。

(AMM職員) 震災の企画は阪神間では美術博物館が一番早かったと思う。新聞に取り上

げられると他のマスコミにも取り上げられる。

(会長) 観覧料についてはどうですか。

(事務局) 観覧料については、資料2をご覧ください。  
予算について、AMMへの委託料は、事業費と人件費を含んで年間4,500万円くらい。プラス、施設の維持管理に年間3,000万円くらい。美術博物館1年間で、7~8,000万円の一般財源を使って運営をしている。今年度の入館者数について、「震災から15年」の展示は、昨日の時点で3,125人・観覧料は44万円くらいなので、20年度とほぼ同じになる。

(藤原教育長) 全館で展示をするという案、是非考えたい。  
展示に使えるのは7~8,000万円のうち約1,000万円。  
もう1,000万円あれば多少は良くなるのでは。もう1,000万円はそう大変なことではないのでは。  
年1回は全館を利用して起爆的な大きなものをやりたい。そして、後はじっくりやっていきたい。

(会長) 20年度は有料入館者数が減っているが、何か特徴的なことがあったのか。

(事務局) 事業数の減少によるものです。20年度は事業が6本、そのうち有料が4本。19年度は事業が8本、そのうち有料が7本です。

(会長) この件については、よろしいでしょうか。

(藤原教育長) 各委員のご意見は、活かしていきたい。

(秋山委員) 外へ教育普及へ行った数も入れてほしい。

(西山委員) 美術館・博物館は残念ながら、今の日本では大勢の人が来る所ではなくなってしまった。しかし、そこにはいいものがあるって見てほしいので、営業活動するしかない。美術博物館は人数が少ないので、それを求めるのは酷。「市立」と銘打っているのも、もっと市や市民が様々な形で応援してほしい。

(会長) 企画した人は、1人でも多くの人に見てほしいと思っている。  
そのために、私たちを含めて何ができるか真剣に考える必要があるのではないかと。企画を実現させるために、これからも積極的に意見を申し上げていきたいと思う。  
本日は、ありがとうございました。

以上